

2011年度 SCAN 201 教室最優秀発表論文

「シクロによる釧路市中心市 街地の観光活性化」

～サステイナブル・ツーリズムの視点から～

北海道教育大学釧路校

平岡ゼミ

大高 誠之

木島 麻衣

本橋 優介

2011年12月

論文概要

私たちは、釧路市中心市街地(以下、中心市街地)を中心にして、シクロというベトナムの3輪自転車を使って、観光ガイドをしているシクロ・プロジェクトのボランティアに参加している。観光ガイドを通して、日頃から中心市街地に元気がないように感じている。元気がないと感じる理由は、街中を歩いている人が少なく、また商店街などに活気がないという点である。

中心市街地には、釧路市の窓口である JR 釧路駅や、釧路たんちょう空港からの連絡バスも通っている。また、ホテルなどの宿泊施設も多くあるため、観光客は中心市街地を訪れていると私たちは考えた。しかし、中心市街地において、「フィッシャーマンズワーフ MOO」などの観光施設では観光客を多く目にするが、北大通りなどの街中ではほとんど目にすることはない。そこで私たちは、観光施設を中心に観光している観光客を、もっと街中で観光してもらうことで、中心市街地が元気になり、さらに中心市街地の観光も活性化するのではないかと考え、本研究を始めるにあたった。

私たちが対象とする中心市街地は観光の場としてのみ成り立っているのではなく、住民の生活の場でもある。住宅街や商店街があり、また水産業が盛んな地域でもある。そうした資源は、昔からのものであり、また文化的な面も持っているものである。これは、観光資源としても十分に価値のある資源だと私たちは感じているが、しかしながら現在の中心市街地の観光では、観光と生活がつながっていないと私たちは考える。生活の場である中心市街地で観光を活性化させていくにあたっては、中心市街地における生活を壊してしまわないように、サステイナブル・ツーリズムを参考にして、今ある資源を利用して、観光の内容を考察していき、今までなかった、観光と生活のつながりというものを、中心市街地につくっていく。

今回は、私たちが参加しているシクロ・プロジェクトの活動を基にして、中心市街地での新しい観光スタイルを提言しようと考えている。さらに、中心市街地における観光客に関するデータが、私たちの調査では確認できなかったので、中心市街地における観光客の情報収集の仕組み作りも考察していこうと考えている。

本研究は、資料、文献以外に、私たちの活動での経験や思い、中心市街地で活動している他団体の方の声をもととして研究・考察をしていったものである。

論文目次

I 釧路市中心市街地の現状

- I-1 釧路市における中心市街地とは
- I-2 私たちが考える釧路市中心市街地
- I-3 釧路市中心市街地の観光の現状
- I-4 釧路市中心市街地の観光における課題

II 課題解決の方法

- II-1 サステイナブルツーリズムについて
- II-2 僕たちツーリズムについて
- II-3 シクロについて

III 目指す釧路市中心市街地の姿とは

IV 提言

- IV-1 提言概要
- IV-2 水揚げツアー
- IV-3 提言で見込まれる効果
- IV-4 今後の展望と課題

V おわりに

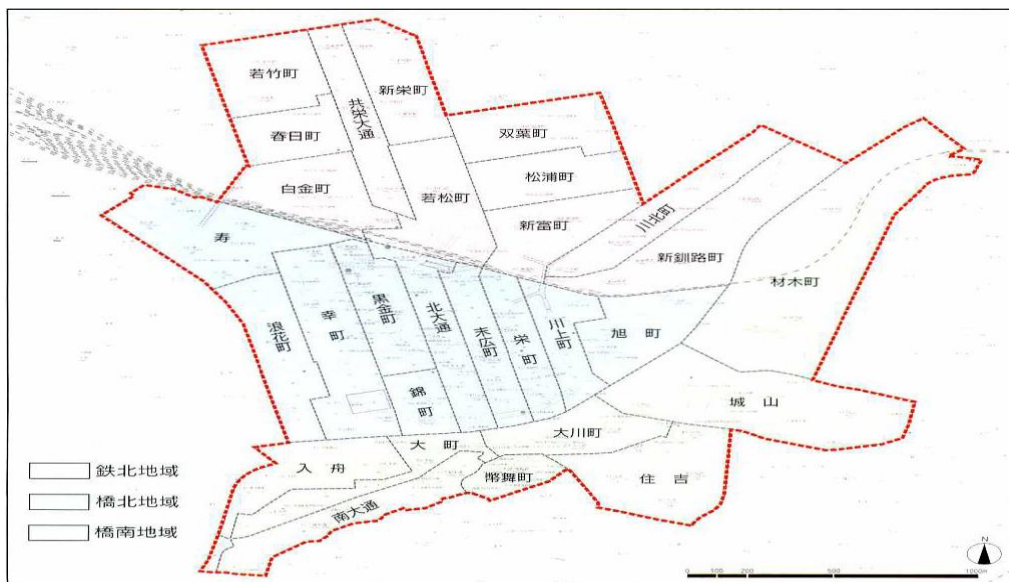
参考文献

I 釧路市中心市街地の現状

I - 1 本研究における釧路市中心市街地とは

釧路市が定めた想定中心市街地の範囲は以下の図によって表わされる。釧路駅・北大通り・釧路川を中心とし29の地域から成り立っている。本研究においては釧路駅以南の北大通りを中心とする、寿、幸町、黒金町、浪花町、錦町、北大通り、末広町、栄町、川上町、旭町、材木町、城山、大川町、幣舞町、南大通り、大町、入舟の17の地域を対象とする。

図1 釧路市が定める想定中心市街地区域図



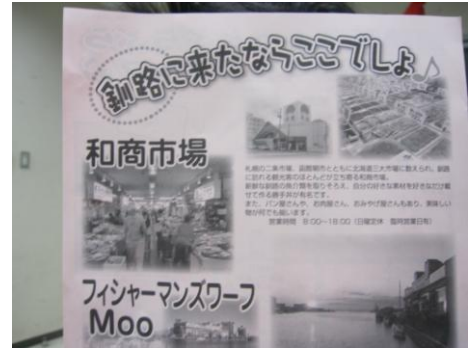
出典：想定中心市街地区域図（釧路市中心市街地活性化基本計画）

I - 2 私たちが考える釧路市中心市街地

私たちはシクロの活動をしていて、中心市街地では観光施設以外の場所で観光客と会う機会が少ないということに印象を受ける。商店街や街中に観光客が観光をしている様子はあまり見ることができない。しかし、観光大型施設においては、買物や食事をしている観光客を多く目にする。実際にシクロの活動で観光客と話をすると、大多数の人が「観光大型施設には行く、行った」という話を聞く。私たちは中心市街地では、観光客が街に出ていくことが少ないと考える。これらを通して私たちは、中心市街地の中では、観光大型施設でしか観光が行われていていなく、中心市街地では観光と生活がつながっていないのではないかと考える。

I-3 釧路市中心市街地の観光の現状

中心市街地の駅やホテルに置いてある観光客向けのパンフレットを調べると、そこには、観光大型施設を中心に紹介がされていて、中心市街地の生活という面はあまり紹介がされていない。これは観光客に「釧路と言えば〇〇」というような一定のテーマやイメージを紹介しているため、中心市街地に来た観光客は受け身的な観光をしてしまっているのではないだろうか、私たちは考え、これも生活と観光がつながっていないと考える。

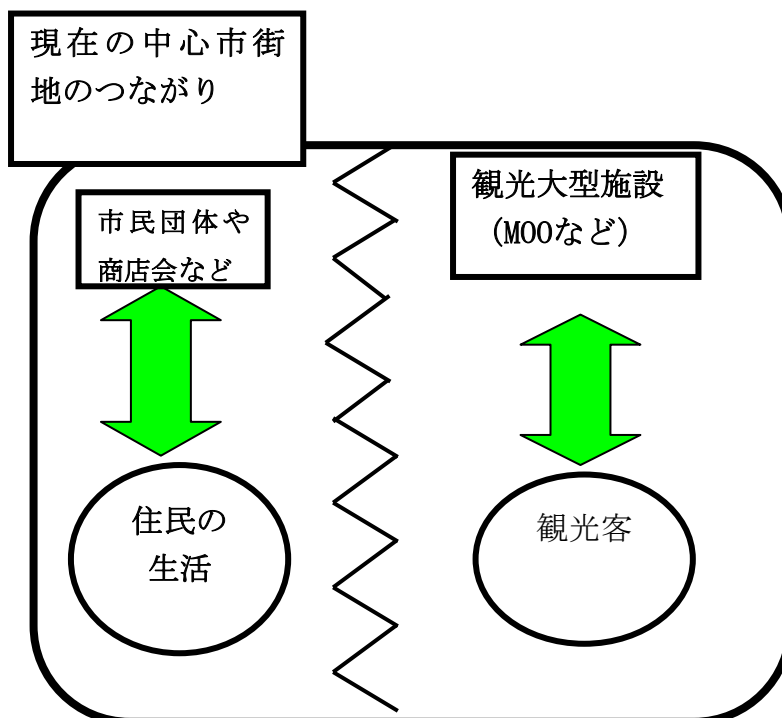


出典：JR 釧路駅、2010、『釧路駅ちよつとぶらぶらしてみませんかマップ』

I-4 釧路市中心市街地の観光における課題

以上より、私たちは、中心市街地におけるつながりに課題意識を見出した。現在の中心市街地においては、生活と商店会や市民団体などとのつながりは構築されている。また、観光客や観光と、フィッシャーマンズワーフ MOO などの観光大型施設とのつながりも構築されている。しかし、生活と観光というものはつながらずに、切り離されてしまっている(下図2参照)。これを、本研究における中心市街地の課題とする。中心市街地は生活という面と、観光という面をもつ。そのため、この2つの面が切り離されている状態では、観光客は本当の意味での中心市街地を知ることにはならない。市民の生活とは切り離された観光としての中心市街地を知ることになるのだ。さらに、2つの面がつながることで、中心市街地としても、資源を活用することができるようになり、今まで観光に関わって来なかった人も、観光に関わることができるようになり、中心市街地自体の活性化が見込まれる。

図2



II 課題解決の方法

II-1 サステイナブル・ツーリズム

私たちは中心市街地の観光における課題の解決の方法として、サステイナブル・ツーリズムの視点から考えることにした。一般概念としてサステイナブル・ツーリズムとは、エコ主義、生態系中心主義、内発的発展、小規模・ソフト、持続可能性の5つの柱がある。私たちは、中心市街地に新しい観光施設を作ったり、外部の資本で観光活性化させたりするのではなく、今ある中心市街地の資源を生かすことで観光活性化を目指し、地域の方で中心市街地をより良くしていきたいと考える。そのため、サステイナブル・ツーリズムの概念の中でも、内発的発展、小規模・ソフト、持続可能性という点を中心に据えて研究を進めていく。

II-2 ぼくたちツーリズムについて

本研究では、中心市街地における課題解決のために、サステイナブル・ツーリズムを参考にし、「ぼくたちツーリズム」というものを以下の4つに定め、「ぼくたちツーリズム」をもとにして研究を進めていく。

- ・僕たちと観光客が釧路についての会話をし、釧路について考える
- ・今ある町をそのまま活用する
- ・各自が釧路で各自のストーリーを構築する
- ・リピート性のあるもの

釧路について考えるとは、今までは観光ガイドで、シクロが案内するだけであったが、観光客にも釧路についてガイドと一緒に、考えて深めていく。そして中心市街地で行う観光も、新しく観光施設を作ったり、まちを大きく変化させたりするのではなく、今のままの中心市街地の資源を活かして観光を行っていく。また、今までは釧路のイメージをガイドや観光施設が提示するような観光スタイルであったが、ぼくたちツーリズムでは観光客には釧路市の今ある姿を考えてもらうことで、観光客一人ひとりの釧路へ対するイメージを深めさせ、自分自身で気づいた釧路のテーマを基にして、各自のストーリーを構築できる観光を目指す。そして、観光客に釧路を好きになってもらうことによって、釧路に何度も来てもらう。

II-3 シクロについて

本研究では、私たちが活動しているシクロをもとにして考察していく。シクロとは、東南アジア、特にベトナムで利用されている3輪の人力タクシーである。前に2輪、後ろに3輪のタイヤで成り立つ。後ろにこぎ手の座席があり自転車の

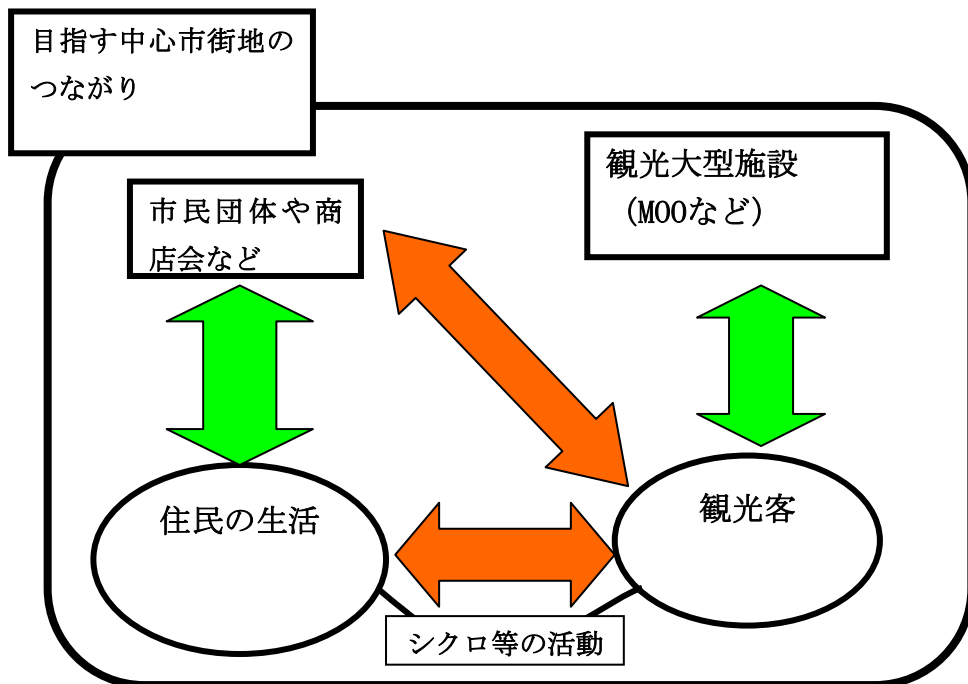


様にこぐ。そして、前に客用のシートがあり、こぎ手の他に 2 人まで乗車可能である。現在、社会人 7 人、大学生 11 人の計 18 人で中心市街地にてシクロ・プロジェクトとして活動をしている。活動内容は観光案内をはじめとして、買物客の送迎、各イベントへの出店などである。シクロは、CO2 を排出しないので、環境に優しい乗り物である。また、低速での走行し外部との隔たりがないので視野が広がり、ゆっくりと周りを見渡し、街を感じることができ、観光には適した乗り物である。

Ⅲ 目指す釧路市中心市街地の姿とは

現在の中心市街地では、生活と市民団体や商店会等とのつながりと、観光客と観光大型施設とのつながりというもの存在していたが、生活と観光、市民団体や商店会等とのつながりがほとんど存在していないことを私たちは課題とした。そこで、本研究では中心市街地において、従来からあるつながりを残しつつ、新たに生活と観光、市民団体や商店会等とのつながった中心市街地を目指す。具体的には、観光大型施設以外でも観光が行われ、住民の生活の中に観光という要素が組み込まれ、日常の中心市街地での生活と観光が結びついている中心市街地である。

図 3



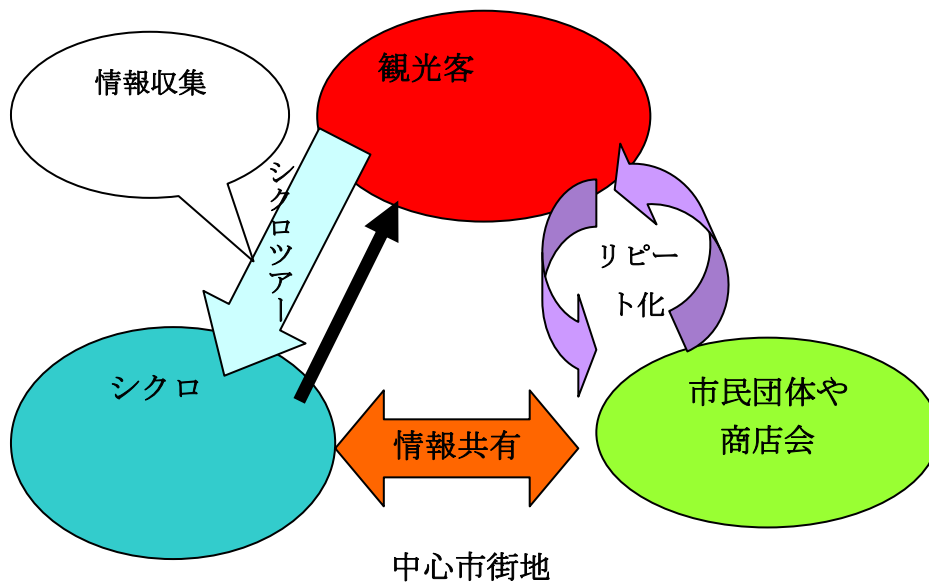
IV 提言

IV-1 提言概要

今回の提言では、まず、中心市街地に来た観光客にシクロツアーに参加していただき、中心市街地の様子や生活について観てもらおう。今まで中心市街地の観ることがなかった姿を観てもらおうことで、新しい発見をしてもらい、また、シクロツアーのガイドと一緒に中心市街地について、興味や関心を深めて行ってもらおう。

さらに、釧路市には、いままで中心市街地に来る観光客のデータがほとんどなかったのので、ツアー参加者が持った興味や関心を収集してデータ化していく。そのデータは、中心市街地の団体等に配信し、中心市街地の団体等にもデータ収集を行ってもらい、情報を共有していく。そして、シクロツアーで、新しい発見をし、興味や関心を深めた観光客は、中心市街地にリピートするのではないかと考えている。

図 4



IV-2 水揚げツアー

シクロでのツアーでは、今回はモデルとして「水揚げツアー」を取り上げる。従来の観光では「港街釧路」というイメージを、魚市場などで売られている魚の購入や、食事として魚を食べることで構築させているものがほとんどであった。私たちは、そこに新しく釧路川岸壁での、魚の水揚げという視点を盛り込むことで、



魚市場で売られている魚の背景を理解させ、「港町釧路」の本当の姿を観光客にイメージさせる。そして、漁師の生活・仕事というものと観光を結び付けようと考えている。

このツアーではホテルの宿泊客を対象として行う。魚の水揚げを行う早朝の時間帯にホテルを出発し、釧路川岸壁に向かい魚の水揚げを見学する。その後、魚市場へ行き食事や買物をし、ホテルへ帰る。また、このツアーでの移動手段はシクロである。

このツアーを行う意義だが、まず、魚の水揚げという生活・仕事の場と魚市場での観光というものが結びついていることにある。またその他にも、魚の水揚げは主に早朝に行っており、その時間帯にツアーをするということがある。観光客は、普段観光をすることが少ない早朝の時間帯に、中心市街地の観光をすることにより新たな発見が生まれる。また、シクロ・プロジェクト側からも、朝の中心市街地の魅力に気づくことができるのである。

IV-3 提言で見込まれる効果

今回の提言によって、3つの視点からの効果が見込まれる。まず、観光客に対する効果である。観光客は、シクロに乗って観光をすることで、中心市街地での新しい気づきをしやすくなり、また、シクロによる観光ガイドと一緒に観光をすることで、興味が膨らませることができ、疑問を解決しやすくなるという効果が考えられる。次に、シクロ・プロジェクトに対する効果である。シクロ・プロジェクトには、観光客の新発見が、シクロ・プロジェクトにとっても新発見になり、中心市街地の新しい魅力を知ることができる。また、観光ガイドをしていく上で、観光客の興味・関心が分かるので、ガイドのやり方を工夫することができるようになるという効果が考えられる。そうなることで、シクロ・プロジェクトの活動は、より楽しいものになる。最後に、中心市街地全体に対する効果である。中心市街地に来る観光客のデータがあることで、観光客に対する戦略が立てやすくなる。そして、中心市街地の住民が、当たり前だと感じていた資源の価値について見直すことができるようになる。さらに、中心市街地での生活を観光客に理解してもらうことができる。このように、観光客、シクロ・プロジェクト、中心市街地全体の3つの面にとって良い効果が生まれることで、観光と生活がつながる中心市街地になっていくと考える。

IV-4 今後の展望と課題

本研究を実践していくことで、シクロ・プロジェクトは、今まで明確化されていなかった中心市街地に来訪する観光客の興味・関心を把握することができるようになる。そのデータをもとにして、観光客のニーズに合わせた多様な観光ツアーの提供を考えている。また、提言で取り上げた「水揚げ見学ツアー」だけではなく、日常のシクロ・プロジェクトの活動でも、観光客の興味・関心の情報を収集しデータ化していくことで、中心市街地に来訪する観光客のデータをより良くつくっていくことが見込まれる。

今回の提言を実践していくに当たって、私たちには3つの課題が考えられる。1つ目は、観光ガイドをするにあたって、担い手となるのは観光の専門家ではない学生が中心となるの

で、釧路に対する知識の少なさが挙げられる。2つ目は、シクロ・プロジェクトの活動の中心は、ボランティアで構成されているので、人員の確保や後継者問題がある。3つ目は、シクロやシクロ・プロジェクトの活動の知名度が、まだ低いと考えられるので、宣伝・アピールを強化していかななくてはいけないということである。

V おわりに

今回の研究を進めるに当たり、北海道教育大学釧路校平岡俊一先生をはじめ、同大学野村先生やシクロ・プロジェクトの事務局長であり釧路公立大学地域経済センターの天内様よりの確で温かいご指導をいただいた。また、釧路市中心市街地において調査を進めるに当たり、まちなかコンシェルジュくるる様をはじめとする多くの団体の方々に厚くご協力いただいた。本研究はそうした方々の協力の賜物である。あらためて、ここで感謝を申し上げたい。

参考文献

- ・釧路公立大学地域経済研究センター、2010、『釧路市の持続的発展に向けての観光産業の役割』
 - ・釧路公立大学地域経済研究センター、2002、『地域観光の経済効果分析と地域自立型産業への展開に向けての研究』
 - ・釧路公立大学地域経済研究センター、2007、『釧路市観光振興ビジョン』
 - ・釧路市・釧路商工会議所、2010、『釧路市商店街実態調査報告書』
 - ・楊潔、2006、「サステイナブル・ツーリズムの展開と可能性」、愛知県立大学、『愛知県立大学大学院国際文化研究科論文集 7』、115-114
 - ・三方良し研究所 HP (<http://www.sanpo-yoshi.net/study/idea.html>)
- 閲覧日平成 23 年 12 月 8 日
- ・釧路観光協会、2011、『2011 くしろガイドマップ表情多彩』
 - ・JR 釧路駅、2010、『釧路駅ちょっとぶらぶらしてみませんかマップ♪』